

生活支援体制づくり協議体（地域包括支援センターあんま担当圏域レベル）  
開催報告書

1 開催日時 令和7年8月5日（火） 13時30分～15時30分

2 開催場所 東部保健福祉センター 健康教育室・集団指導室

3 参加者 29名

委員16名（蒲地区：6名、和田地区：4名、中ノ町地区：6名）、関係機関9名、事務局4名

4 協議の内容

1. 開会

会長よりあいさつ。

2. 新規委員紹介

新規委員4名の紹介及び一部委員の所属団体変更に関するアナウンスの実施。

3. 前回の振り返り

前年度の振り返り・今年度の進め方について事務局より説明。

4. オープニングトーク

地区混合グループワークを実施。

テーマ：「最近の〇〇地区、最近の〇〇町」

各グループで挙げられた意見については以下のとおり。

Aグループ

■和田地区自治連 委員

7月末に篠ヶ瀬町内において祭りを開催し、約1,000名が参加した。水鉄砲、かき氷、焼き鳥等を出店し、医大の学生によるマジックショーも実施した。中学生ボランティアは例年販売を担当し好評を得ている。本年度は応募70名のうち50名を受け入れ、15時から16時に活動を行った。

ラジオ体操は8月末、学校が始まる前の週に「篠ヶ瀬はまそう」「JA」において実施し、各30名程度が参加した。今後は、10月11日・12日に八柱神社で開催予定の秋祭りに向けて準備を進めている。

■中ノ町地区自治連 委員

白鳥町では子どもの数が少なく、小学6年生までで19名にとどまっている。子ども神輿はコロナ禍、猛暑、子どもの減少等を理由に中止している。今後は高齢者も楽しめる催しを企画することが課題である。

### ■中ノ町地区民児協 委員

地域活動全般において担い手不足が顕著であり、若年層から高齢者まで活動に関わる人数が減少している。また、猛暑により農作業が滞り、農業の担い手不足も課題となっている。

生活弱者の中には冷房を使用せずに過ごす者もあり、支援の難しさを実感している。

### ■蒲地区自治連 委員

将監町の夏祭りは子どもの参加が少なく、それに伴い保護者の参加も減少している。開催時間は猛暑を避けるため17時から20時とし、シニアクラブ・女性部・子ども会が協力している。シニアクラブはゲームやくじ引きを担当し、子どもとの交流を担っている。

芳川における草刈りは自治会の重要事業であり、シニア世代を中心に約900mの土手を2日間かけて実施している。ボランティアも参加しているが、「自治会＝草刈り」というイメージが強く、加入意欲の低下につながっている。

将監町子ども会については、以前は役員を敬遠するため小学4年生で退会する傾向が見られたが、現在は会費を撤廃し全員加入制とした。積極的な声かけを行い、参加を促している。

### ■蒲地区社協 委員

「さくらの会」の取組みは、蒲地区のシンボルである蒲桜を中心とした活動である。学校の積極的な働きかけにより、地域を大切にしている活動が推進されている。

蒲小学校では「地域を知る授業」が多く取り入れられ、学校主導による地域活動の広がりが生まれている。「咲かそう、蒲桜」と記した横断幕を掲げ、地域に根差した活動を展開している。

## Bグループ

### ■和田地区社協 委員

和田地区では家事支援サービスの実施について検討を開始した。現在は関係者の理解を得ながら会議を重ねている。検討を進める中で様々な課題が見えてきており、他地区のノウハウを参考に進めていきたい。

### ■中ノ町地区社協 委員

一部市町村では、選挙時に専用車が巡回する移動式投票所を設けていると聞いた。このような高齢者に配慮した取組みが、今後さらに広がってほしいと考える。

また、今後、移動支援活動の支援を実施するNPOを講師に招き、中ノ町にて講演会を開催予定である。他地区の事例を参考にしつつ、外出支援への理解を深める機会とする。

### ■蒲地区社協 委員

浜松スポーツセンター（宮竹町）跡地にスーパーが建設されると聞いている。

### ■中ノ町地区自治連 委員

松小池町は調整区域であり、住宅や商業施設が増えにくい状況にある。買い物や通院には車が必要であり、車を利用できなくなった場合には施設入所や家族の支援に頼らざるを得ない状況が多い。

#### ■中ノ町地区社協 委員

高齢者の運転は事故リスクを伴う一方で、五感を使うことで介護予防につながる面もある。実際に免許返納直後から認知症が進んだ事例もあり、返納を勧められると断りにくい事情もある。高齢者の運転機会を減らすことが必ずしも良い結果につながるとは限らないのではないかと考える。

#### ■和田地区民児協 委員

移動スーパーの運行について、どの町にどの程度入っているのかという情報が重要であり、把握したい。

#### Cグループ

#### ■中ノ町地区社協 委員

中ノ町小学校には夏休みの宿題がなく、子ども食堂と連携して学習支援を実施している。食事支援も含め、8名程度が参加している。

また、8月中旬には花火大会が開催され、屋台の引き回しとともにお囃子や太鼓の練習を行い、親子で楽しめる内容としている。なお、町民大会は過去に実施していたが、参加者不足により中止している。

#### ■中ノ町地区シニアクラブ 委員

お囃子や太鼓の練習対象は以前は高学年に限っていたが、子どもの減少により現在は小学4年生から対象としている。

#### ■蒲地区自治連 委員

8月上旬に宮竹町で夏祭りを開催し、焼き鳥や生ビールを提供した。今後、9月に敬老会、10月に蒲神明宮秋祭りおよび町民体育大会を予定している。

また、麻雀に熱心な住民が多く、競い合う場となっている。子どもについてもドンジャラ等で楽しめる可能性がある。

#### ■和田地区社協 委員

三世代交流の一環として、手作りの水鉄砲やゴム鉄砲を用いた遊びを親・子・孫の世代で楽しむ機会を設けている。

#### ■蒲地区民児協 委員

蒲小学校は地域との交流に力を入れている。郊外学習時には地域住民が付き添い、民生委員を中心にボランティアが花壇づくりや修繕、裁縫等を子どもに教えている。加えて、学校自ら地域ボランティアを募集している。

#### ■全体として

グラウンドゴルフは世代を問わず楽しめるため、世代間交流に有効であるとの意見があった。

また、麻雀に関心のある者が多いことから、輪投げのように町別対抗戦を企画しても良いのではないかと意見が出された。

5. 情報提供「他地域でおこなわれている外出支援の概要について」

事務局より情報提供を実施。

6. 協議事項

地区別グループワークを実施。

テーマ：「情報提供を踏まえて感じたこと・考えられること」

各グループで挙げられた意見については以下のとおり。

**蒲地区**

■ **蒲地区民児協 委員**

蒲地区の家事支援で買い物代行をしている。毎月の依頼は少ないが、潜在的な需要は多いのではないかと感じる。

また、家事支援ボランティアの高齢化と担い手不足の課題が挙げられている状況であり、11月で退任する民生委員に勧誘の声がかかっている。

■ **蒲地区社協 委員**

総会などの会議に参加できない人もいる。会議には自力で来るようにという決まりがあるため、移動支援があれば活用できると感じる。

また、現状近隣での乗り合わせは少ないと思われる。サロンや所属団体の会議等への送迎、スーパーへの送迎などにニーズがあると考えられる。

■ **蒲地区自治連 委員**

自身でスーパー等へ行けない方が、ドラッグストアが実施する移動スーパーを週に2回利用している。値段は高いが、好きなものを選んで買える点にニーズがあると考える。

■ **蒲地区シニアクラブ 委員**

シニアクラブの会議に出席しているが、基本的には自力で会場まで歩ける人が毎回参加している。そのため、会場まで歩いて行けない人が参加する手段はなく、新しい参加者が増えていかない。

■ **蒲地区自治連 委員**

昔は隣近所で声を掛け合いながら乗り合いをして外出していたが、現在は少なくなった。再びそのように移動支援を自然に行えるのが理想であると感じる。

■ **蒲地区民児協 委員**

蒲地区で外出支援を始めるとしたら、家事支援に関わるボランティアを増やし、家事支援の一部として始めるのがよいのではないかと感じる。

■ **蒲地区社協 委員**

上西町に大型の商業施設やスーパーがあるが、常に混んでいるため、高齢者はあまり利用していないと思われる。その他にもドラッグストアやスーパーは多いが、いずれも車が必要な場所で

ある。ただし、タクシーを利用している人が多く見られる。スーパーまでの距離は短いため、車を所有するよりも安い可能性がある。

#### 和田地区

##### ■和田地区民児協 委員

民生委員として訪問した先での聞き取りによれば、移動支援については80代前後の免許返納後の高齢者に、買い物の観点から需要があると感じる。近隣同士で助け合える体制となることが望ましい。

##### ■和田地区社協 委員

移動支援を実施する場合、自家用車を用いるとなると車を提供することに抵抗がある人や、事故の懸念がある。

現状として和田地区では「家事支援」を計画しており、各町からコーディネーターを出すことで町単位で展開できるようにしていきたい意向がある。

過去のアンケート結果から、ボランティアをやってみたいという人がいることは確認できている。

##### ■和田地区自治連 委員

移動支援を実施するにあたり、カーシェアリング等を活用するのも有効ではないか。

また、家事支援活動から始め、必要に応じて移動支援を少しずつ広げていけばよい。

##### ■和田地区社協 委員

家事支援、移動支援いずれに取り組むにしても、時間を掛けて協議を深めるべきである。同じ和田地区といっても町ごとに地域性や社会資源に差があるため、それらに留意する必要がある。

#### 中ノ町地区

##### ■中ノ町地区社協 委員

もし市内の他地区社協のように外出支援サービスを実施するなら、家事支援サービスから立ち上げる必要があると感じた。

##### ■中ノ町地区シニアクラブ 委員

シニアクラブに関連して、市主催の大会（行事）が旧西区雄踏で開催された。日ごろの活動参加は問題ないものの、その時は交通手段の関係で参加できない方が多数いた。市関係の行事など特定のイベントには送迎バスを出してくれるとありがたいと感じた。

##### ■中ノ町地区自治連 委員

買い物支援を考える際には、ネットスーパーの活用も有効な手段である。ただし、移動スーパーや外出支援と比べて交流が生まれにくいことに注意が必要ではないか。

##### ■中ノ町地区社協 委員

歳末に自治会で高齢者の友愛訪問をした際には、外出支援を求める声はあまり聞かれなかった。

そのため、日ごろ関わりの深い民生委員などには寄せられている可能性があり、どのように外出支援を求める声を集めるか注意する必要があるのではないかと。

#### ■中ノ町地区自治連 委員

以前、医療・福祉関係の施設で車両を提供する話が出た際、月1回2時間程度といった条件があったが、それでは賄えないほどの需要があるように感じた。

#### ■中ノ町地区自治連 委員

スーパーの店舗によっては無料送迎バスを展開しているところもある。このように企業の協力があれば協議も深まると思われる。例えば北島町に新たにスーパーができると聞いたため、相談するのも有効である。

#### ■中ノ町地区シニアクラブ 委員

散歩のついでに買い物に行ける人は多いが、買い物後に荷物を家まで持ち帰るのが難しい方は多いように感じる。

### 7. その他

- ・ 会則変更、委員報酬の支払いについて事務局より説明。
- ・ 次回日程についての確認及びアナウンスの実施

日時：令和7年12月4日（木）10：00～12：00

会場：蒲協働センター ホール

### 5 今後の見通し・ 必要な対応

第1回協議体では、この間協議体会議外で「移動手段に関する課題」や「外出支援に関する取り組み」について話題に挙がっていたことから、それらを踏まえた情報提供を行い、グループワークにて協議を深めた。地域特性や社会資源については、それぞれの地区で特性が異なるため、共有のテーマで継続的に協議を行うことが有効であるとは言い難い。

今後については、前年度の協議体で課題として挙げられた「担い手不足」や「居場所づくり」をテーマとして扱いつつ、今回「外出支援」をテーマとして用いたように、日頃から地域と関わる中で見出されるトピックス的な事項についても、随時取り入れていく。